

12月21日 | 和の伝統を地域ぐるみで伝承

北中学校で、年末恒例の「門松づくり大会」が開かれ、全校生徒約120人が地元老人会とともに制作しました。

日本の伝統行事に関心を持ち、地域との交流を図ることを目的とした大会には、PTAや地元住民も材料調達で参加。生徒は数人のグループに分かれ、老人会員の手ほどきで門松を約60個完成させました。門松は、市役所などに寄贈されたほか、「しまだ元気市」で一般にも販売されました。



12月18日 | 心を込めて作った品々を販売

市役所本庁舎1階ロビーで、市内障害者就労支援施設の製品（授産製品）の即売会が開催されました。

授産製品の販売促進は、そこで働く障害のある人の工賃（収入）の向上につながります。テーブルには、手づくりジャムや縫製品など、格安な商品がたくさん揃い、多くの来庁者が買い物を楽しみました。1月以降も、毎週水曜日の午前10時から午後1時まで、開催する予定です。

12月6日 | 住民パワーで明るいまちづくり

地域住民が自ら汗を流すまちづくりを目指し、六合地区の有志が六合駅前の公衆トイレの大掃除を実施しました。

道悦島地区では「六合駅周辺街づくり委員会」を立ち上げ、駅周辺の活性化と明るく住みよいまちづくりを目指しています。参加した住民の皆さんは、デッキブラシや高圧洗浄機などを手に、トイレの外壁・屋根・内部を隅々まで清掃。額に汗しながら、新しい年に備えました。





12月1日 | 新年を力強く駆ける巨大干支

大代地区の地域おこしグループ「王子田会」^{おおじた}の皆さんが制作した「ジャンボ干支」が、今年も完成しました。

19作目となる今回の作品は、高さ約3m・全長約6mの迫力ある「午」^{うま}。軽トラック2台分の稲ワラを使い、メンバー13人が1週間かけて仕上げました。県道焼津森線沿いに現れた躍動感あふれる姿は、夜にはライトアップされ（午後5時～9時）、2月末まで展示される予定です。

12月19日 | なつかしの校舎を忠実に再現

県立島田工業高校の生徒が制作した、昭和の島田第四小学校の模型が、市役所本庁舎1階ロビーで公開されました。

制作したのは、建築科模型班の7人。昭和27年に引かれた図面を基に、約8カ月かけて完成させました。幅約180cm・奥行き約90cm・高さ約45cmの大作で、角材や合成樹脂などを使い、外壁や教室内部だけでなく、校庭で遊ぶ昭和20年代の児童たちも再現されています。



しまだトピックス

日本一の木製貯湯タンク完成

川根町笹間渡の道の駅「川根温泉」の隣に、国内最大の木製貯湯タンク^{ちよとう}が完成しました。本体部分の高さ3.8m、直径6.5mのタンクには、島田産のスギ材が使用され、約100tの温泉を貯めることが可能です。木製タンクは、保温効果や耐酸・耐アルカリ性があり、耐震性や耐久性にも優れています。川根温泉ホテルが開業する7月までは「ふれあいの泉」に温泉を供給します。